

# 日刊 日本金属通信

2022年(令和4年) 1月6日(木曜日)

## レーザーなど厚板加工設備増強

スチール

### 友延工場のプラズマも更新

国内最大のBH(ビルトH形鋼)の製作者の桂スチール(兵庫県姫路市、三木桂吾社長)は今年、厚板の加工設備の大幅な増強を計画している。プラズマ切断機については3月に、友延工場(岡山県備前市)の2基うちの1基を更新する。導入予定設備はコマツ産業機製の大型ツイスター加工機で、マーキングもでき、BH製作の前処理加工の効率化に寄与させる。レーザー切断機は全社に4基有しているが、建築部材向けの切板の生産性の向上を図るため、今年3基増設し、7基体制とする計画。導入予定設備はアマダ製の出力10<sup>キロワット</sup>の設備で、付帯設備としてパレットチェンジャーも設置する予定。

同社のプラズマ切断機については岡山第3工場、岡山第5工場、友延工場、玉野工場などに計9基有している。友延工場にはプラズマ切断機が2基あるが、1基が老朽化していることから、3月にも最新鋭機に切り替える。導入予定設備は切断条件に使い分けられることができ、良好な切断品質を実現。加工機側のNCで、切断速度だけでなく、ガス流量や切断高さが最適値に設定できる。プッシュプル集塵によって、粉塵・ヒュームの舞い上がりを防止する。マーキングやポンチングができ、加工の合理化に貢献する一などが特徴。

一方、レーザー切断機は岡山第2工場に1基、岡山第3工場に2基、岡山第5工場に1基と計4基を有している。ただ、建築向けの切板、穴明け加工のさらなる効率化を図るにはレーザー切断機の増強は不可欠と判断、この1年で3基増設し7基体制とする。三木桂吾社長は「外国人技術研修生が入国しづらく、人手不足になってきている。このため、切板も省人化や効率化を軸に進めていきたい」としている。